

平成22年度 1月分NGO相談員対応結果

●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

1月に入ってそうそうに、農業関係者からの問い合わせが多くなってきた。当団体がTPPIに関わる講演会を企画したことへの問い合わせで、多くなったこともあるがその他にも様々な農業団体がセミナーなどを企画していたためメディアが取り上げるケースも多く、北海道全体としての関心が高かったように思われる。また、地域を重視した相談が相次ぎ、改めて地域を考えることが国際につながるということを考えさせられた。北海道は記録的な豪雪に見舞われた1月だったが、例年にも増して、南への志向が高まり、沖縄やタイ、インドネシアなどでの活動を希望する人が多かったのも面白い傾向だ。常に多分野を意識しながら、これからも相談業務にあたってゆきたい。

●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい。)

1	TPPと北海道について	
相談内容	2国間協定は今後どのように進んでゆくのかを知りたい	
対応内容	当団体が2月に企画している外務省国際情勢講演会「TPPと食料安全保障について」を案内する。また、様々な省庁で視点が違うことから、あくまでも国際的な視点から見た場合ということで、一般論としての説明をした	
特筆した理由	①農業関係者からの相談は初めてだったため ②多分野に渡ってまずは窓口相談対応の必要性を感じたため	

2	開発教育教材づくり	
相談内容	地域にあった独自の開発教育教材について知りたい	
対応内容	全国的な部分では、浜松や滋賀の事例を紹介、またアイヌ人権を取り扱ったものや、環境教育を地域に向けてアレンジしたものなどを紹介した。また、従来の開発教育教材についても、実情に合ったものを取り入れてゆく必要性などについても説明をした	
特筆した理由	①自ら開発教育の教材作りを行う人が増えてきているため ②地域の問題を考える手法として開発教育が使われているため	

3	沖縄のNGO活動	
相談内容	冬場に沖縄でNGO活動してみたい	
対応内容	北海道では、冬場に南の地域に憧れがあり、そういう意味では連携は面白いと考え、沖縄NGOセンターの活動を紹介する。また、学生主体で活動するONE LOVEなども紹介し、北と南のつながりから、若者の人材育成や、双方の活動にインパクトを与えるものと考えられる。	
特筆した理由	①NGOの地方連携の必要性を感じたため ②デメリットをメリットにする取組みをすべきと感じたため	